

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：特定領域研究

研究期間：2006～2011

課題番号：18078003

研究課題名（和文） 居住文化育成の視点からみた持続可能な都市・地域デザイン
-関西圏を中心として-

研究課題名（英文） The Design of Sustainable Cities and Regions from the Viewpoint of
Fostering Domiciliary Culture

研究代表者

高田 光雄 (TAKADA MITSUO)

京都大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号：30127097

研究成果の概要（和文）：

都市・地域デザインにおける持続可能性に関する理論的枠組みについて検討を行った。持続可能性の3つの側面、環境、経済、社会のうち、環境的側面に人工環境も含めて考えることで、都市・地域の持続可能性を総合的に捉えることができる。また事例からの示唆を得るため、大阪市都心部、京都市都心部、枚方・八幡地区、京都・洛西ニュータウン、イギリス・セントヘレンズ、インドネシア・ボロブドゥール寺院周辺などを対象にアクションリサーチを進めた。居住者による居住環境の合意形成支援と「居住文化育成」の連携を実証的に記述、分析するとともに、地域の居住文化に即したローカルレベルでのガバナンスの重要性を示した。

研究成果の概要（英文）：

We examined theoretical framework on the concept of sustainability of cities and regions. Sustainability is said to have three aspects, environmental, economical, and social aspect. We pointed out that built environment needs to be included in the environmental aspect of sustainability. Through action researches on various fields, it is clarified that the local level governance should be in accordance with local domiciliary culture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	12,000,000	0	12,000,000
平成 19 年度	12,000,000	0	12,000,000
平成 20 年度	12,000,000	0	12,000,000
平成 21 年度	12,000,000	0	12,000,000
平成 22 年度	9,600,000	0	9,600,000
平成 23 年度	9,600,000	0	9,600,000
総計	67,200,000	0	67,200,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学／都市計画・建築計画 5303

キーワード：居住文化、まちづくり、シナリオ・アプローチ、関西圏、持続可能性、意思決定支援、交通システム、ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初まで、研究代表者は科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)「地域のまちづくりと連携したスケルトン型集合住宅の合意形成支援システムの開発」(平成 16～18 年度)、

及び、科学研究費補助金・萌芽研究「シナリオ・アプローチによる住民参加型ニュータウン再生システムに関する研究」(平成 16～18 年度)の助成を受けていた。この2つの研究課題は、「居住者参加による居住環境の合意形

成支援システム」の構築を目的とした研究課題であるが、居住環境の合意形成は、地域のまちづくり活動の成熟度に大きく依存する。まちづくり活動への参加とは、地域の自然・歴史・文化に接し、地域の空間構造と生活構造を継承発展すること、つまり、地域の居住文化育成に関わることであり、居住者が主体的にまちづくり活動に参加することによって、地域のまちづくり活動の成熟度が高まる。そこで、地域のまちづくり活動を高めるために、「居住者参加による居住環境の合意形成支援」と「居住文化育成」が連携したプログラムを構築するとともに、関西圏の地方都市や農山漁村をフィールドとする研究者や、交通工学の研究者の参加を得て、関西圏を中心として、居住文化育成の視点からみた持続可能な都市・地域デザインのあり方を明らかにする。

2. 研究の目的

持続可能な都市・地域のあり方を考える際には、居住者による組織・活動を主体とした上で、行政、専門家との適切な連携による、居住環境のマネジメントが重要となる。居住環境のマネジメントとは、地域資源を発見し、その空間・生活構造を、再生・継承・発展させる行為である。言い換えれば、居住文化の育成とすることができる。持続可能な都市・地域には、居住文化育成の継続的なサイクルがみられると考えられる。本研究課題では、フィールドでのアクションリサーチを通じて実際の事例を記述・分析することによって、居住文化育成の視点からみた持続可能な都市・地域デザインのあり方を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究課題は、(1) 持続可能な発展概念におけるローカルな居住文化育成の意味・役割の理論的検討(2) (1)を踏まえた上での、都心部・郊外ニュータウン・地方都市・農山漁村を対象とした国内調査、(3) 持続可能な都市・地域デザインを実現する交通システム、(4) ヨーロッパEU諸国・東アジア・東南アジア諸国を対象とした海外調査・国内調査対象事例との比較、を実施することにより、居住文化育成の視点からみた持続可能な都市・地域デザインのあり方を明らかにすることを試みる。

4. 研究成果

(1) 都市・地域デザインにおける持続可能性概念の検討

都市・地域デザインにおける持続可能性に関する理論的枠組みについて検討を行った。持続可能性の3つの側面、環境、経済、社会

のうち、環境的側面に人工環境も含めて考えることで、都市・地域の持続可能性を総合的に捉えることができると考えられる。また、持続可能性概念について扱った既往の論文を分析し、都市・建築分野における持続可能性概念の整理を行った上で、本研究の位置づけを行った。それにより、持続可能な都市・地域デザインのあり方を明らかにするためには、工学と社会科学の連携が不可欠であり、本研究はその方向性を既往の研究からさらに進めるものであることを確認できた。

(2) フィールドでのアクションリサーチと理論へのフィードバックの検討

持続可能な都市・地域デザインの理論構築に向けて事例からの示唆を得るため、フィールドでのアクションリサーチを進めた。具体的な調査対象は、大阪市都心部におけるネットワーク型まちづくり、京都市都心部における景観まちづくり、枚方・八幡地区における交通まちづくり、京都・洛西ニュータウンにおける居住者参加型まちづくり、イギリス・セントヘレンズにおける低・未利用地の環境再生活動、インドネシア・ボロブドゥール寺院周辺のむらづくり、スリランカ・津波被災者の再定住地などである。これらの調査によって、「居住者参加による居住環境の合意形成支援」と「居住文化育成」の連携を実証的に記述、分析することができた。

(3) 研究成果の公表

公開シンポジウムを計3回開催し、研究成果の報告を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 37 件)

1. 鈴江悠子・高田光雄・森重幸子・生川慶一郎「住まい手が主体的に行う京町家の公開の実態と課題：生活文化を含めた京町家の保全・再生に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』672、pp. 419-426(2012) 査読あり
2. 前田昌弘・高田光雄「再定住地における生活再建とコミュニティ形成に対するマイクロクレジットの効果—インド洋津波後のスリランカにおける住宅移転をともなう再定住に関する研究 その3—」『日本建築学会計画系論文集』668、pp. 1859-1866(2011) 査読あり
3. 関川華・前田昌弘・宮野順子・菅井牧子「東日本大震災後の応急居住と遠隔地避難—関西圏における居住支援の現状と位置づけ—」『住宅会議』83 巻、pp. 28-30 (2011) 査読なし
4. 松村暢彦・松浦洋平「マルチパートナーシップ型交通まちづくり活動における主

- 体間の関係性』『土木計画学研究・論文集』27、pp. 209-218 (2010) 査読あり
5. 松村暢彦「住民参加の交通政策の課題」『交通科学』41、pp. 39-44 (2010) 査読あり
 6. 小浦久子「リスク情報と計画を調整する地域ガバナンスの可能性」『日本建築学会都市計画部門研究協議会資料「地域から創造する都市像とサステナブルシティー地域主権の先に見える都市づくり」』日本建築学会大会(北陸)、pp. 130-133 (2010) 査読なし
 7. 有吉忠一・山口洋典「NPO 支援ファンドによる地域力再生の可能性に関する一考察」『同志社政策科学研究』12 巻 2 号、pp. 217-239 (2010) 査読あり
 8. 小山健一、山口洋典「市民参加演劇の活動を通じた公民協働による地域活性化の方途」『同志社政策科学研究』12 巻 1 号、pp. 17-33 (2010) 査読あり
 9. 猪井博登、森有一郎、新田保次「福祉有償運送に対する利用者の支払意思額に関する研究」『土木計画学研究・論文集』vol.27 no.5、pp. 951-960 (2010) 査読あり
 10. 谷内久美子、猪井博登、新田保次「住民主体型バスサービスの事業化プロセスに関する事例比較分析」『交通科学』Vol.41 No.1、pp. 3-13 (2010) 査読あり
 11. 許方、高田光雄「コミュニティ主導する高齢者在宅介護支援システムのパターン分析に関する研究：北京における Q-コミュニティの「無囲牆敬老院」を例として」『日本建築学会計画系論文集』635 pp.121-128 (2009) 査読あり
 12. 小浦久子「都市における文化的景観」『ランドスケープ研究(日本造園学会誌)』、Vol.73 No.1、pp.14-17 (2009) 査読なし
 13. 小浦久子「景観協議と地域コンテクスト」『日本建築学会大会都市計画部門研究懇談会資料』pp.13-16 (2009) 査読なし(依頼原稿)
 14. 松村暢彦「モビリティ・マネジメントと交通まちづくり」『都市問題研究』61 巻 12 号、pp.72-85 (2009) 査読なし
 15. 山口洋典「自分探しの時代に承認欲求を満たす若者のボランティア活動：先駆的活動における社会参加と社会変革の相即を図る「半返し縫い」モデルの提案」『ボランティア学研究』9、pp.5-54 (2009) 査読あり
 16. 谷内久美子、猪井博登、新田保次「個人と地域の特性からみた住民のバス事業への参加意識の要因分析」『都市計画論文集』pp.499-504 (2009) 査読あり
 17. 谷内久美子、猪井博登、新田保次「ソーシャル・キャピタル概念を用いた住民主体型バスへの賛否意識の分析」『土木計画学研究・論文集』vol.26、no.4、pp.603-610 (2009) 査読あり
 18. 谷内久美子、新田保次、猪井博登「住民参加によるバス交通システムの成立に関する研究」『交通科学』vol.38、no.1、pp.11-15 (2009) 査読あり
 19. 安枝英俊「洛西ニュータウンにおけるまちづくり活動の始動条件に関する研究」『日本建築学会第4回住宅系研究報告会論文集』4、pp.17-26 (2009) 査読あり
 20. 森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊「接道条件からみた歴史的市街地の持続可能性-「再建築不可」敷地の分布状況の分析を通して-」『日本建築学会第4回住宅系研究報告会論文集』4、pp.123-130 (2009) 査読あり
 21. 前田昌弘、高田光雄、神吉紀世子「スリランカ漁業世帯の菜園付戸建再定住地における居住状況-居住地移転前後の世帯間関係の変化と継続性に着目して-」『日本建築学会第4回住宅系研究報告会論文集』4、pp.177-186 (2009) 査読あり
 22. サキャラタ、高田光雄、神吉紀世子「パタン市伝統的市街地における仏教僧院の運営と居住空間の利用状況について-パタン市のムーバヒを中心として-」『日本建築学会第4回住宅系研究報告会論文集』4、pp.69-76 (2009) 査読あり
 23. 穂苅耕介、神吉紀世子、高田光雄、北原理雄「首都圏の既成市街地保全における建設業者の役割と実態に関する研究-千葉県市川市行徳地区『行徳小普請組』の取り組みを事例として-」『日本都市計画学会論文集』44-3、pp.229-234 (2009) 査読あり
 24. Xu Fang、Mitsuo Takada、"Structure pattern of government leading supporting system for the elderly at home: case study of N-subdistrict in Beijing," 『都市住宅学』63 pp.33-38 (2008) 査読あり
 25. 郭雅雯、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊、黄蘭翔「日本統治時期以降における台北市青田街の日式住宅の使用状況と増改築に関する考察：台湾の日式住宅における居住空間の変容過程に関する研究 その1」『日本建築学会計画系論文集』628 pp.1189-1196 (2008) 査読あり
 26. 松村暢彦「モビリティ・マネジメントによる交通行動変容と地域愛着の関係性」『情報科学論文集環境』22 pp.127-132 (2008) 査読あり
 27. 松村暢彦「モビリティ・マネジメントとまちづくりの連携」『交通科学』39 pp.1-4 (2008) 査読あり
 28. 山口洋典「ソーシャル・イノベーション・スキルセットに関する一考察：コミュ

- ニケーション力とコミュニティの維持・発展のリーダーシップ発揮の観点から」『同志社政策科学研究』(10) 1 pp.75-92 (2008) 査読なし
29. 森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊、繪本啓太、小林彩子、柴崎耕平 「京都市都心部の袋路空間におけるコミュニティの実態と居住者の満足度-袋路空間内外の付き合い状況の分析を通して-」『日本建築学会 住宅系研究報告会論文集』3 pp.201-208 (2008) 査読あり
30. 宮川智子 「旧産業地域における景観戦略と低・未利用地の環境再生に関する研究-イギリス・マージーサイド大都市圏・セントヘレンズを事例として-」『日本建築学会計画系論文集』 Vol.624 pp357-362 (2007) 査読あり
31. 山口洋典 「ソーシャル・イノベーション研究におけるフィールドワークの視座:グループ・ダイナミックスの観点から」『同志社政策科学研究』(9)1 pp1-21 (2007) 査読なし
32. 韓勝旭、高田光雄、リム・ボン、神吉紀世子 「権利関係から見た在日コリアンが集住している長屋ブロックの空間変容」『日本建築学会計画系論文集』 619 pp93-99 (2007) 査読あり
33. 関川華、高田光雄 「フランス首都圏における民間共同住宅の管理人の職能に関する研究」『日本建築学会 住宅系研究報告会論文集』 2 pp167-176 (2007) 査読あり
34. SeoungWook HAN, Bon LIM, Mitsuo TAKADA, "Consideration on the scope of residents in the redevelopment project," Proceeding Volume-The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, I, pp599-602 (2006) 査読なし
35. Masahiro MAEDA, Yusuke NAKAGAWA, Kyouta YAMADA, Shuji FUNO, "Consideration of Actual Conditions and Issues of Settlements in South West Coast of Sri Lanka Damaged by Sumatra Earthquake and Indian Ocean Tidal Wane in 2004," Proceeding Volume-The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, I, pp252-257 (2006) 査読なし
36. 木村祐太、高田光雄、安枝英俊、高間勲、「GISによる上町台地境界地域の新設高層集合住宅の建設動向の分析-新設高層集合住宅居住者の地域資源と地域活動への関わりに関する研究 その1-」『日本建築学会学術講演梗概集』F-1 pp943-944 (2006) 査読なし
37. 木村祐太、高田光雄、安枝英俊、高間勲、「上町台地境界地域における新規居住者の地域への関わり方の分析-新設高層集合住宅居住者の地域資源と地域活動への関わりに関する研究 その2-」『日本建築学会学術講演梗概集』F-1 pp945-946 (2006) 査読なし
- [学会発表] (計 26 件)
1. 前田昌弘「社会関係からみた居住地計画の継続性-スリランカでのフィールドワークを中心に-」日本建築学会比較居住文化小委員会(建築会館・東京都)(2012.7.27)
 2. Masahiro Maeda: Social and Physical Reconstruction after Tsunami - Case studies from Sri Lanka and Japan, the First Anniversary of the East Japan Great Earthquake (11th March, 2011), (Disaster and Development Centre in the Northumbria University, England), (2012.3.12)
 3. 森重幸子「京都市の中心部における歴史的細街路の変化の実態と課題:膏薬辻子沿いの両側町・新釜座町のまちづくり活動を事例として」日本建築学会大会(関東)、(早稲田大学・東京都)(2011.8.24)
 4. Doi Shushi, Mitsuo Takada, Hidetoshi Yasueda, Midori Kamo: The experiments of installing and changing infill in `infill laboratory glass cube` of the experimental housing NEXT21, 16th International Conference of the CIB W104 Open Building 'OPEN AND SUSTAINABLE BUILDING', (Bilbao, Spain) (2010.5.18)
 5. 高田光雄「まちを育む暮らしの役割(招待講演)住まい・まちづくり活動推進協議会&住まい・まちづくり担い手支援機構講演会(学士会館・東京都)(2010.6.29)
 6. 神吉紀世子「工業用途減少地域における中高層共同住宅供給に関する研究 大阪市西淀川区を対象とした統計分析と民間事業者へのヒアリングを通じて」日本建築学会大会(北陸)学術講演会(富山大学)(2010.9.9)
 7. 松村暢彦「場所の記憶の共有化による地域のなじみに及ぼす影響」土木計画学研究発表会(山梨大学)(2010.11.23)
 8. 松村暢彦「イベント型モビリティ・マネジメントによる任意活動の行動変容効果」土木計画学研究発表会(徳島大学)(2010.6.5)
 9. 猪井博登、伊藤翔太「福祉有償運送運営協議会の参加者間の対立構造分析-福祉的交通手段の供給量の拡大を目指して」土木計画学研究発表会(徳島大学)(2010.6.6)

10. 山口洋典、花村周寛、アサダワタル「都市における状況をデザインする道具に関する一考察」日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会（東京国際大学）（2010. 8. 29）
 11. 森重幸子「歴史的市街地の袋路集中地区における居住の再生-京都市都心部における再建築不可敷地と町家の立地の分析-」日本建築学会大会（北陸）学術講演会（富山大学）（2010. 9. 10）
 12. 山口洋典 「メディア・アクティヴィズムによる市民の主体性の喚起に関する一考察-イタリアの社会センターの実践を中心に」 国際ボランティア学会 第10回大会（お茶の水女子大学）（2009. 3. 8）
 13. Sachiko Morishige, Mitsuo Takada, Hisako Koura : Urban Renewal and Sustainability of Historical Urban Center -Case Study on Urban Center of Kyoto-, Forum UNESCO University and Heritage 12th International Seminar, (Hanoi, Vietnam) (2009. 4. 6)
 14. 松村暢彦「マルチパートナーシップ型交通まちづくり活動における主体間の関係性」第39回土木計画学研究発表会（徳島県徳島市）（2009. 6. 14）
 15. 猪井博登、谷内久美子「地域交通における行政と住民組織の協調的分担関係」第39回土木計画学研究発表会（徳島大学）（2009. 6. 14）
 16. 猪井博登、中西真奈美「地方都市における福祉有償運送からバス交通への交通手段転換」第40回土木計画学研究発表会（金沢大学）（2009. 11. 22）
 17. Jarumi BALDEON, Kiyoko KANKI : STUDY ON FORMER SETTLEMENTS Children's participation in heritage awareness: case study of the Historical Centre of Lima, International Conference - HERITAGE 2008 World Heritage and Sustainable Development -, (Vila Nova de Foz Coa, Portugal) (2008. 5. 7-9)
 18. Mitsuo Takada "THE NEW TREND OF SKELETON-INFILL HOUSING IN JAPAN-KYUDO GAKUSHA Renovation Project and the New Experiment in NEXT21-," International Symposium 'Innovation in Housing -change of life' (ソウル科学技術会館、韓国) (2008. 6. 25)
 19. 松村暢彦 「地域連携型組織による持続的な交通まちづくり活動に関する考察」土木計画学会（和歌山大学）（2008. 11. 1）
 20. Kanki Kiyoko "New Category in Japanese Cultural Property Law - 'Cultural Landscape' ," 1st International Symposium on Borobudur Cultural Landscape Heritage 2007 "Regional Conservation Planning," (Jogjakarta, Indonesia University of GadjahMada) (2007. 4. 20)
 21. 松村暢彦 「モビリティ・マネジメントによる交通行動変容と地域への愛着の関係性」土木学会土木計画学研究発表会（九州大学）（2007. 6. 9）
 22. Yamaguchi Hironori & Group Dynamics of Organizing Nonprofits for Community Development in Urban Areas 7th Annual Meeting of Asian Association of Social Psychology, (Wellinton, New Zealand) (2007. 7. 26)
 23. 宮川智子 「低・未利用地の再生に向けた景観計画に関する研究 イギリス・マージーサイド大都市圏・セントヘレンズ区を事例として」日本建築学会大会（福岡大学）（2007. 8. 29）
 24. 安枝英俊 「敷地境界線の相対化の概念に関する検討 敷地境界線の相対化による京都市都心部の高層住宅設計手法 その1」日本建築学会大会（福岡大学）（2007. 8. 31）
 25. Masahiro MAEDA, Hidetoshi YASUEDA, Kiyoko KANKI, Mitsuo TAKADA: REGIONAL CHARACTERISTICS OF HOUSEHOLD MOVEMENT IN THE SOUTH WESTERN COAST OF SRI LANKA AFTER THE INDIAN OCEAN TSUNAMI 2004-CASE STUDY: RESETTLEMENT PROGRAMS IN MORATUWA, HIKKADUWA, HANBANTOTA , Proceedings of the 6th Conference of Asian City Planning 2007, pp.1-9, 日本都市計画学会（東洋大学）（2007. 12. 2）
 26. Mitsuo Takada "Regeneration and Reuse of Historic Residential Architecture by Skelton-Infill Method -KYUDO GAKUSHA Project in Tokyo-, " NRL International Symposium KOREA (Cheongju University, Korea) (2007. 12. 11)
- 〔図書〕（計12件）
1. 高田光雄編著「都心・まちなか・郊外の共生-京阪神大都市圏の将来-」晃洋書房（2010）総ページ数412
 2. 高田光雄「「ひと」と「まち」の関係性とコモンスの視点」『地域を活かすつながりのデザイン:大阪・上町台地の現場から』上町台地コミュニティ・デザイン研究会編、創元社、（2009）pp.216-238
 3. 上町台地コミュニティ・デザイン研究会編、山口洋典「ネットワーク型まちづくりでつながる・まとまる・ひろがる」『地域を活かすつながりのデザイン:大阪・上町台地の現場から』創元社、（2009）pp.140-163
 4. 藤木庸介編著、神吉紀世子「伝えたいのは生きた都市（まち）-地元主体による町

並み保全』『生きている文化遺産と観光-住民によるリビングヘリテージの継承』学芸出版社 (2009) pp.18-37

5. 地域建築資産活用研究会 編・著、高田光雄 (コラム) 『まちをよみがえらせる地域建築資産活用術』風土社 (2008)pp. 2
6. 井口貢編・著、山口洋典 (第13章) 『入門 文化政策：地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房 (2008)pp. 14
7. 神吉紀世子 「熊野古道の文化的景観を守る地元主導の地域づくり-「紀伊山地の霊場と参詣道」世界文化遺産登録後4年を通じて」『BIO City』 No.40 , (2008)pp.56-63
8. 神吉紀世子 「農山村集落の景観を持続するために-適切な利用・管理をめざして」『都市研究・京都第21号』, 京都市総合企画局政策推進室政策企画課, (2008)pp.24-35
9. 高田光雄 「京都市新景観政策の一評価 (全国が注目する京都の景観まちづくり)」『季刊まちづくり』 16号 (2007) pp99-101

[その他]

ホームページ等

<http://www.sdgovernance.org/modules/tinycl/index.php?id=6>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高田光雄 (TAKADA MITSUO)
京都大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号：30127097

(2) 研究分担者

小浦久子 (KOURA HISAKO)
大阪大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：30243174
神吉紀世子 (KANKI KIYOKO)
京都大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号：70243061
松村暢彦 (MATSUMURA NOBUHIKO)
大阪大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：80273598
宮川智子 (MIYAGAWA TOMOKO)
和歌山大学・システム工学部・准教授
研究者番号：30351240
山口洋典 (YAMAGUCHI HIRONORI)
立命館大学・共通教育推進機構・准教授
研究者番号：90449520
猪井博登 (INOI HIROTO)
大阪大学・大学院工学研究科・助教

研究者番号：70403144
安枝英俊 (YASUEDA HIDETOSHI)
京都大学・大学院工学研究科・助教
研究者番号：60402971

(3) 連携研究者
()

研究者番号：